



第194号

発行所 上高井教育会
発行人 上高井教育会理事長 山岸 徹
編集人 会報編集委員長 斎藤 章子
印刷所 須坂新聞社

基調を転換し、教育改革推進を

上高井教育会理事長 山岸 徹

本年度の教育会理事長を務めさせていただくことになりました。会員の皆様のお力添えをいただきながら、精一杯努めて参りたいと存じます。よろしく願ひ致します。

教育の基調の転換

さて、新世紀を迎え、社会は国際化、情報化、科学技術の発展、環境問題への対応、少子高齢化等、様々な面で社会の激しい変化が予想されています。このような時代を生きていくため、教育には、社会の変化に柔軟に対応し、生涯にわたって学び続け、主体的・創造的に生きていくことができる資質を養うことが要求されています。これからの学校教育においては、多くの知識を一方的に教え込みがちであったこれまでの教育の基調を転換し、基礎・基本を確実に身に付けさせ、それを基にして「生きる力」すなわち「自分で課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力」や「自ら

を律しつつ、他人と協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性」「たくましく生きるための健康や体力」の育成が重要であるとされています。

本年度から実施されている新しい学習指導要領は、このような考え方に立ち、完全学校週五日制の下、教育内容を基礎的・基本的な内容に厳選し、それにより生まれた時間的・精神的な「ゆとり」を用いて「生きる力」をはぐくむことを基本的なねらいとしています。

また、各教科等を通して学んだ基礎・基本を課題学習や体験活動の中で確実に自らのものとするための時間として「総合的な学習の時間」も創設されました。

花の栽培のご指導をいただいている方との会話の中で、「花の生育状態が悪くなつてくると、たいていの人は植えた苗が良くなかつたと苗のせいにしてしまいがち。でも土

具体的には、筑波大学教授田中統治先生を中心講師としてお迎えし、井上小学校での社会科の授業研究を通して、具体的なご指導をいただきながら各校の力キユラムづくりを生かすことを願うものです。

具体的には、筑波大学教授田中統治先生を中心講師としてお迎えし、井上小学校での社会科の授業研究を通して、具体的なご指導をいただきながら各校の力キユラムづくりを生かすことを願うものです。

自己点検と研鑽

総会の折にも信濃教育会会長の牛越先生が私たちに問い掛け続けてこられたことに触れさせていただきましたが、「この時期多少の痛みや困難を乗り越えないで改革も信頼回復もない」更に「内なる改革は自己点検からとし、①人間としての、②専門職としての、③教師にとつての生涯学習のイロハ」の自己点検三点を真剣に受け止め、主体的に研鑽の場を求め資質の向上を目指したいものです。

また、本年度大幅に増額された教育研究・同好会補助金など有効な活用を図りたいものです。

心のノート活用

六月末、「三高校にハトの死がい 計七羽」との新聞報道があり、忌まわしく震撼とさせる内容の事件でした。わが国の児童生徒については、生活経験の希薄化、家庭や地域の教育力低下などが言われ、そのため、善悪の判断や規範意識、他人を思いやる心などが十分にははぐくまれていないなどの指摘もされ、すべての小・中学生に「心のノート」が配布されました。主たる教材としての教科書ではなく、また、従来の読み物資料などの副読本に代わるも

でもないとされていますが積極的に活用していきたいものです。

星野富弘さんの言葉の中に、こんな言葉がありました。「振り返つてはいけない」とか「前向きに生きろ」などとよく耳にするけれど、振り返ることなく生きられる人がいるだろうか。また、前ばかり向いて歩くことがそんなに立派なことだろうかとも。更に、振り返つてばかりでは前に進めない

から、程度にもよるが、それを罪悪のように考えるのは日々の生活を窮屈なものにしてしまふ気がする。そして、器械運動の技を例にとつて、大きな技は後方に回転するものばかりだと、終わりにには、私たちが「ここだっ」というような踏ん張りをきかず時には、思いのほか後ろ向きが登場するように思われると・・・。

(仁礼小)

教育会だより

- | | |
|------|-----------------------------------|
| 4.2 | 選挙公示(役員選挙) |
| 4.3 | 第1回代議員会 第2回選挙管理委員会 |
| 4.4 | 理事長選挙 第3回選挙管理委員会 |
| 4.6 | 第4回選挙管理委員会 |
| 4.8 | 第2回代議員会 |
| 4.9 | 副理事長・理事・信教常任委員 信教代議員選挙 |
| 4.12 | 第5回選挙管理委員会 |
| 4.18 | 第1回理事会 |
| 4.23 | 教育会会計監査会 |
| 4.24 | 教育研究集会三団体代表者会 |
| 4.25 | 第6回選挙管理委員会 |
| 4.30 | 第3回代議員会 初任者会員歓迎会(初任者会員七名) |
| 5.1 | 監事選挙 第7回選挙管理委員会 |
| 5.7 | 研究総委員会(於須坂小学校 同好会発足) |
| 5.18 | 同好会世話係会会長会 |
| 5.28 | 第2回理事会 |
| 6.5 | 第1回研究委員会世話係・委員長会 |
| 6.8 | 教育会定期総会・講演会(於 須坂市役所西館) |
| 6.12 | 計画並びに予算の承認 |
| 6.15 | 〇会員意見発表 新津明典教諭(小山小学校) |
| 6.22 | 〇学級経営を見返して―いじめ問題を中心にして― |
| 6.25 | 〇講演会 講師 田中統治先生(筑波大学教授) |
| 6.28 | 第1回研究小委員会 |
| 7.7 | 第3回理事会 |
| 7.12 | 第116回信教定期総集会(於諏訪市文化センター)本郡から28名参加 |
| 7.25 | 第2回研究小委員会 |
| 7.28 | 第2回同好会 |
| 7.29 | 第4回代議員会 |
| 7.30 | 田中先生ご指導 社会科研究委員会 (於井上小学校) |
| 7.31 | 上高井教育会会報第194号発行 |

カリキュラムづくりを

研究委員会会長 永井 胤麿

上高井教育会研究委員会では昨年度まで「子どもにとって、わかり、魅力ある授業のあり方」「自ら課題を持って追究し学ぶ喜びを味わえる授業」をテーマに掲げ、中心講師として筑波大学教授谷川彰英先生にご指導をいただいていたきました。そして各校このテーマに基づき、各教科では基礎基本を明確にし、体験的活動を通して自ら課題を追究し主体的に創り出していく授業を目指した研究を進め、成果を上げてきました。

今年度から新教育課程が実施され子どもたちの生きていく上で必要となる基礎的な力を身に付けること、主体的に問題を解決していける資質・能力創り、共に生きていく心とする心を育むための教育のあり方が求められ、各学校では、学校のもつ地域性や社会性・生徒の実態を考慮したカリキュラムの開発が迫られています。つまり、「特色ある教育」「特色ある学校づくり」を目指すとき学校全体のカリキュラムや各教科・総合的な学習・各領域のカリキュラムを見直し、カリキュラム作りの研究を立ち上げていかねばなりません。当たり前の事でありますが例えば「いじめ」を考えた人権同和教育を進めるにおいて、そこには道徳教育も関わりまた特活が関わって

くるとなれば各領域のカリキュラムと全体のカリキュラム作りが必要になります。そこで今年度からカリキュラムを専門とされる筑波大学教授田中統治先生を中心講師として迎え「新しい自分に気づき「生きる力」を育むカリキュラムの創造」を研究テーマに掲げ指導を受けることにしました。

五月十八日の田中先生の講演のなかで次のようなことを指摘してくださいました。

- ①今までの教育課程に拘らず、視野を広げたカリキュラム作りをしていかねばならない。
- ②単一的な教育課程でなく統一されたものにしていく。
- ③現行のカリキュラムが持っている特徴と問題点を点検・評価し、その結果をフィードバックするためのシステムを立ち上げる。
- ④カリキュラムはデータを元に決定されなければならない。授業をベースにしてカリキュラムを変えていく。
- ⑤校内カリキュラムセンターが必要になる。
- ⑥カリキュラムに関する調査法には統計的方法と事例的方法を組み合わせて実施する。通常の授業であれば、教科書の単元にそって行い、工夫して成果を上げている指導計画と実践記録を蓄積していくことから始め公開し、批評し

合って深めていくことが大切である」とまとめていました。研究企画委員会では、今年度田中先生にご指導いただく初年度ということで、井上小学校の社会科の授業をもとに社会科研究委員会と共に研究し、その考えを他の学校にそして教科に広げる活動をしていきたいと考えております。そして内容や成果をまとめ、各研究委員会から出された課題や意見をまとめ、検討して来年度からの研究の方向を探っていきたく思っております。

上高井教育の充実発展のために、各委員会では田中統治先生にご指導いただいた内容を基に研究を深めていくことを目指しています。先生方の主体的な研究を期待します。(墨坂中)

本校の中核活動

地域の宝を生かす

五月の参観日に合わせて実施された「ふれあい体験教室」に於いて「一年生は車イスダンスのグループの方々と交流し、二、四年生は高齢者との交流を、三年生は、車イス体験、五年生は点字やアイマスク体験、そして六年生はボランティアについて学んだ。昨年度は、三年生が日常的に交流をしているおばあちゃん達をより深く理解したいとの願いから「ふれあい体験パート2」として「シニアシミュレーション」をお母さん方と共に実施した。「こんなに大変なのに……」とおばあちゃん方への思いがまた一つ深まった体験であった。

平成14年度 県外視察者 上高井教育会(敬称略)

学校名	氏 名	視 察 目 的	視察方面	実施期間
栗が丘小	奥原 京一	教科教材研究	東 京	7月頃
高山小	北澤 晃	評価基準に基づいた評価の実施状況について	関西京都教育大学附属小	10月
須坂小	山岸 俊樹	総合学習の実践校に学ぶ	東 京	7~8月
小山小	佐藤 里香	道徳教育実践を学ぶ	千 葉	2学期中
小山小	津津 賢司	道徳教育実践を学ぶ	千 葉	2学期中
森上小	竹前 和子	総合的な学習「生き生きとした子供が育つ学校」	上越教育大学附属小学校	5月24日
日滝小	藤澤 隆之	総合的な学習について	富山県堀川小	5月下旬
豊洲小	川口真理子	総合的な学習について	東 京	2学期
日野小	竹内ゆかり	体育学習について	関東方面	2学期(10月)
井上小	金田 達成	総合的な学習を生かしたカリキュラム編成のあり方	関東方面	2学期
井上小	堀田 幸雄	人権同和教育の研修	関東方面	2学期
高南小	宮坂ゆかり	日本国語学会に参加するため	東 京	8月
高南小	橋本 寛	体育の授業研究を深めるため	筑波大学附属小学校	7月頃
旭ヶ丘小	古畑 祐二	個と歩む授業のあり方	富山県堀川小学校	5月29・30日
仁礼小	池内 博	特別活動における環境教育	名古屋	8月
小布施中	西山 綾子	英語の少人数学習の実践校に学ぶ	東 京	11月
高山中	吉澤 孝志	松任市全体で取り組む読書指導の実態・行政の取り組みなど	石川県松任市	2学期
高山中	黒岩 和男	学ぶ喜びを見いだしていく学校づくり	新潟大学附属中学校	2学期
高山中	小山 聖子	MDの生徒の指導について	医療施設サナトリウム	2学期
高山中	井口 正敏	学校心理学にもとづいた生徒指導	都立晴海総合高校	2学期
相森中	島津 和浩	課題別学習のあり方～立体や平面図形の教材～	名古屋方面	12月上旬
相森中	大内奈美子	現代美術と教育との関わり～日本画の美術授業の導入～	東京方面	11月下旬
墨坂中	飯泉 大輔	生命のメッセージ展を現地見学して人権教育の参考にしたい	静 岡	8月10日
東 中	島崎 英子	エイズ(性)教育	関東方面	8月8日
東 中	北村 雅	評価のあり方	東京方面	7月31日～8月2日

旭ヶ丘小学校

青少年赤十字活動は、昭和五十九年以来十八年間積み重ねてきた、学校目標とする「自分の花を咲かせる」活動を生み育ててきているように思われる。

昨年度、生涯学習フォーラムの公開授業でご紹介した「すこやかふれあい広場の高齢者の方々との交流や、民生児童委員の皆さんと共に行った「ゆうあいランチ届け」の活動は、JRCの実践目標である「奉仕活動」の枠を超え、人と人とのあたたかいふれあいの中で子ども達を大きく成長させてくれた。高齢者の方々は子ども達の全てをまるごと温かく受けとめさすがと思われ



を発展させた。このような活動を支える旭ヶ丘小学校の教育は、力と豊かな体験をそなえた、理解ある方々に支えられて多様な教育活動を生み出している。(寺島 洋子)

昨年度児童会のVS活動が中心となり、地域の方々の協力も得てアルミ缶を集め、収益で車イスを購入した。そして、それを六年生の総合的な学習とつなげ地域の高齢者施設に寄贈するという方向に活動を発展させた。

このような活動を支える旭ヶ丘小学校の教育は、力と豊かな体験をそなえた、理解ある方々に支えられて多様な教育活動を生み出している。(寺島 洋子)

自らの専門性に磨きを

同好会会長 永井 教雄

本年度の同好会は、二百五十八名の会員による参加と、十五の同好会をもって発足いたしました。昨年より四十名ほどの増加となり、趣旨を自らのものとして研鑽を積もうとされている先生方が増えたことを嬉しく思います。

私も教育会には教師の専門性を培う場が二つあり、研究委員会が、教育に奉職し子どもと関わることでできるための、教師の学力を付ける場であるのに対して、同好会は教師として生きる生涯学習の場であると考えます。日々成長していく子どもたちと共に

美術同好会

宮下 正己

美術同好会で、最も大事にしているという活動は夏期絵画裸婦講習会です。

もう何年にもなりますがこの裸婦講習会には、同好会員ばかりでなく地域の絵画を愛好する方々も自由に参加していただいています。七月初めの講習案内を心待ちにしていた



うに
なっ
てい
ます
なり

以前には、福井敬一先生を講師にお迎えし、研鑽の方向をご指導をいただきながら活動しておりましたが、現在では誰もが講師と共に学びあう仲間の会になっております。自己追求でありそれぞれのテーマは違っても、お互いに鑑賞しあう時には厳しい程の率直な意見交換もあります。とても緊張感のある講習会です。

本年度は、八月初の金・土・日曜の二・四日に計画しています。同好会員以外の方々も参加され、一緒にしませんか。油絵で取り組まれる方が多数で

つに匹敵する本年度スタートした教育体制に対して、今であるからこそ私たち自身が標を正して自らを律して行かななくてはなりません。そのために一つ目は、完全学校週五日制に伴って、週二日の子どもたちの過ごし方や有りようが大きな社会的関心事として表に出ていますが、その奥にどうか裏にというべきか、教師への「先生達の休み」という無理解がうごめいています。真のねらいに即して常に理解をいただかなくてはならないのですが、私たちの教師としての修養的学究的な生き方で示していくことも大切なことではないでしょうか。一層子どもたちのために生きる信頼を築いていきたいと思います。

二つ目は、子どもたちの学

力は学校が責任を持つという観点から、基礎・基本や魅力ある教育課程、興味関心意欲を高揚させる教材研究、人間教師としての幅と深み等、教師のプロとしての学力に絡む社会的要請が一層強まってきていることに素直に答え、それぞれの同好会で、一層課題を明確にして専門性を深めましょう。

三つ目は、特に長期休みが勤務という認識を明確にすべき時が来たことから、研修の機会を多くするために、同好会に入っている人いない人また他の同好会員であつても広く呼びかけ、誘い合つて参加していきましよう。夏休みの同好会開催予定は一覧表を配布してございますので、参照してください。(須坂小)

本校の宝③ 「校歌の大合唱」 東中学校

本校では入学式から卒業式まで、一年中の諸行事に全校でアカペラ混声四部合唱に編曲された校歌を大合唱し、その場の雰囲気盛り上げています。響きの美しさと力強さを兼ね備えた校歌を生徒と職員が一体となつて力の限り歌い上げる時、体育館は珠玉の宝物に包まれる。まさに本校の宝物のひとつである。平成十二年五月の生徒総会のことである。ある三年生が「今年は、今よりもっと校歌や生徒会歌を全校みんなでしっかり歌えるようにしようではないか」という発言をした。それを受けた学芸委員会では、教室や校外でも気軽に声を合わせられるように、アカペラの校歌に編曲できないかと音楽科に相談した。

そこで音楽科では、学芸委員会にいろいろな学校の合唱になつている校歌を聴かせ、編曲のイメージを持たせた。そして生徒のねがいを実現させるべく、学芸委員長とともに信大教育学部の吉本隆行先生を訪ね、編曲を依頼した。その席で学芸委員長は、本校は男子も大きな声を出すので、男子パートにも旋律がほしい、音楽会や親善音楽会でも曲として歌えるように、声だけの前奏や後奏もつけてほしい等のお願いをした。吉本先生は、委員長の要望を快く引き受けてくださった。

待つこと二ヶ月。要望が見事に取り入れられて編曲された校歌が出来上がった。まず、全校生徒の前で職員八名による初演会が行われた。そして、練習開始！九月の東祭では全校による



はじめての編曲校歌が体育館に響いた。しかし、この時点で校歌合唱はまた本校の宝となつた。はじめ、生徒は自分のパートに自信がなく、始業式や終業式で歌うごとに出来不出来の差が大きかったため、斉唱の方がいいという意見も聞かえてきた。そんな時でも、多くの職員が自分のパートの音を必死で覚え、生徒の横に立っていつも精一杯の声で歌っていた。そのような職員の声や姿に励まされ、全校の校歌合唱は次第にその質を高めていき、事前に練習しなくてもその場で響き合う合唱ができるようになった。

本年度、本校は新体育館を建設していただくことになり、六月二十七日に体育館とのお別れ式が行われた。その最後に歌った校歌の「ハーモニー」は思い出多い体育館の天井や床や壁にしっかりと刻み込まれたに違いない。なお、二月に完成予定の新体育館の入口には平成十二年卒業生が卒業記念に贈ってくれた校歌の大きな楽譜が掲げられることになっている。(小林 雅彦)

火ばら 談義

虫取りに夢中

柳澤 和彦



栗ガ丘小 鈴木史朗

先日二年生の子どもたちと学級園の手入れにでかけると、子どもたちが、隣のリンゴ畑の中で大騒ぎをしている。何が起きたのかと行ってみると、畑の中に積み上げてあった古い木の周りでクワガタ虫を見つけたのである。一人が捕まえると、自分も見つけようと必死になって古木をひっくりかえしたり、切り株の周りの土を掘り返したりしている。もう学級園の手入れどころではない。はじめは味を示さなかった子も一緒にになって見つけ始め、虫取りの時間になってしまった。

高山小学校の周りは果樹園や畑が多く、自然にあふれているのだが、まさかそんなところにクワガタ虫がいるとは予想もしなかった。結局オスとメス合わせて七匹も捕まえ、喜んで教室に帰ってきた。

子どもたちの多くは、夏になるといろいろな所でカブト虫捕りをしていて、我慢げに話をしてくれていた。

それからというものの、生活科の畑の手入れが、虫取りの時間に変わってしまった。「先生、畑に行こうよ」と毎日訴えてくるようになった。行けば、必ず四、五匹は捕まえることができるので、楽しくて仕方がないようである。

しかし、困ったことがあった。勝手に畑を掘り返したり、木を散らかしたりしたら畑の持ち主から苦情が来るのではと心配になったからだ。出来る限り元にもどすように子どもたちにも話し、後片付けをするようにしてきた。四度目に畑に行つたとき、その畑の持ち主の方がリンゴの木の手入れに来られていた。事情を話したところ、快く虫取りを許して下さった。担任としては、ちよつとほつとした。以後も何度か虫取りに出掛けていった。一時教室の中にはクワガタの箱が並び、家からえさを持ち寄り、育てる活動が続いた。

そんな話をS先生に話すと、S先生は「畑にカブト虫の幼虫がいるので、もつてきてあげる。」と言って、四十匹程幼虫を持ってきて下さった。子どもたちはとても喜び、一人一匹ずつ育てることになった。大きなベットボトルを上の方の方でカットし、おが屑を入れて、そこで飼い始めた。それから学級文庫の昆虫の図鑑が人気になり、あれこれ言いながら観察をしている。畑の手入れから思わぬ展開になったが、私自身も小学校のとき、虫取りに夢中になったことを思い出し、今は幼虫が成虫になるのを子どもたちと一緒に楽しみにしている。(高山小)

講師一年生

北村由美子

前の仕事を辞めもうすぐ一年になる。ちなみに前の職はスイミングコーチである。指導する環境は、違っていたにしても、あのころも集中できない子ややる気のない子の指導には苦戦していた事を思い出す。職場の規模が小さく皆見えるところでもあり、情報交換と指導法についての意見交換はしやすかった。「あの練習メニューは何の意味があるの」など、意見をぶつけられることもしよつちゅう。その

子育てに思う

野口 麻里

からす なぜなくの
からすは山に
かわいひ七つの子が
あるからよ
かわいひ かわいひと
からすはなくの
かわいひ かわいひと
なくんだよ
山の古巣へ
行つてみてごらん
かわいひ目をした
いい子だよ
子どもが生まれ、この歌の印象が大きく変わった。鳴くのはカラスの勝手だ。」という替え歌のつまらない印象であったが、子どもがお腹にできてからは「可愛い。可愛い。」と鳴く親鳥や、「可愛い。可愛い。」と鳴いているように聞こえる

して指導を任せられるようになるまでに先輩コーチがアドバイスをし、また試もした。一人前になるため、そして、一人前と見てもらうため、積極的に仕事を探して常に周りを見よう、先を見ようとしていた。

いま臨時採用され学校という場に来て日はそれほど経っていないが、すぐに先生として周りから接せられ、始めは何でこんなすぐに、一人前のように扱ってくれるんだらうとまどいを感じた。自分の気持ちの

母親の心がひしひしと感じられるようになった。夜、布団に入ると、三才の娘たち(双子)と手をつなぎ、一日のことを伝える。「ねえ、お話しよう。」「今日ね、どうんこしたよ。」「今日ね、カレーだったんだよ。」「お昼のごはん、ぜんぶ食べられたんだよ。」

「もう、寝ようか。」
「おやすみ。」「おやすみ。」たわいない報告だが、この手の温もりが私の一日の疲れを癒してくれる。子どもは本当に可愛い。

それでも毎日の生活では、可愛いばかり言つてはいられない。朝の起床から時間との戦いだ。「もうこんな時間、早くしなさい。何やってんの。」

方が状況についていけずにいた。学校の中のことでも、生徒の方が知つてることが多く、生徒に聞いてしまうこともたびたびあった。生徒から質問されて、わからない時も気持ちのどこかで、「私だって先生始めたの、つい最近なんだから知らないよ。」という思いをもっていた。

今、自分は前以上に生徒達の近くについて、アドバイスもしてあげられる立場にある。その分責任を持てるようになっていたいと思う。そして、そのための知識を得る時間や、部活で指導する時間がしつかり、自分とれるようになりたいと思つてい

編集後記

本年度から学校週五日制が完全実施となりました。子どもたちにはゆとりが感じられますが、教職員の生活は逆に忙しくなつてしまいました。そんな中、原稿をお寄せいただいた皆様に感謝いたします。本年度は次の編集委員で会誌・会報をお届けします。

委員長 斎藤 章子(豊洲小)
副委員長 平林 博(高山小)
委員 栗田 哲之(栗ヶ丘小)
清水 幸子(須坂小)
新山亜希子(小山小)
中村 竜太(森上小)
瀧澤 幸治(仁礼小)
西澤美代子(常盤中)
松澤智恵子(相森中)

と次から次へと子どもを追いつける言葉が並んでしまう。ある日、園の保育参観があった。会場に入り込むと、追い出すように送り出した朝が思い出され、急に不安になった。果たして我が子は元気に過ごしているのだろうか。そこには友達の手を握り、しつかり歩いてくる娘がいた。こちらと目が合い微笑みながらも、友達の手をしっかりと握って歩いてくる。子どもの健気さに目頭が熱くなり、私はこの二人から仕事に集中できる大切な時間を感じた。

静かな静かな里の秋
背戸に木の葉の落ちる夜は
ああ母さんとただ二人
栗の実煮てます団炉裏端
完全学校週五日制が始まり、子どもと過ごせる時間が増えた。いろいろな過ごし方があるが、時間に追われない、こ